

2024年度 高校部本科 講師紹介

- ①受講生へのメッセージ
- ②授業スタイル
- ③私の授業を受けるなら・・・

辻本 上総

(担当:英語)



「意志道拓」の精神で!

- ①英語が好きで嫌いな人、私にも好き嫌いはあるのですがその気持ちはわかります。好きな人は好きなりに、嫌いな人は嫌いななりに、共に成長していきましょう。
- ②私の授業スタイルは「理解して覚える」です。やみくもに知識を丸暗記しても武器にはなりません。必ず理由を説明してもらいますので「写真暗記」は厳禁です。
- ③今英語が得意か苦手かは関係ありません。数々の先輩たちが見事な逆転劇を演じてくれました。皆さんもそうなりたいという強い覚悟を持って参加してください。

青木 たかあき

(担当:英語)

考えを読み、考えを伝える



- ①言葉を自分勝手に扱ってはいけないのはどの言葉も同じ。受験でもそれは変わらず。どうすれば相手を理解相手に伝えられるか、じっくり学んでいきましょう。
- ②時に指名することがありますが、ともに答えを探る形をとりますので、緊張せずに臨んでください。
- ③安易に即効性を求めず、地道に着実にいきましょう。そして、一回間違っても次は間違わないという気持ちで。

中西 涼太

(担当:英語)

考える力を養い、英語を楽しむ



- ①英語ができるようになるには、正しく知識をインプットし、練習を通じて身に付けることです。あとはガッツと知的好奇心。
- ②授業は、思考力を養うための訓練の場です。どのように考えたか、時には指名して答えてもらいます。間違ってもフェルカムですから、積極的に!
- ③とにかく英語を楽しむこと、考え抜き、悩み、間違ひ、学ぶプロセスを楽しみながら自身の成長を実感してください。予習必須・辞書必携。

五十嵐 卓

(担当:英語)

make haste slowly



- ①語句の意味や綴りに自信がなければ辞書を引き、不明な文法があればノートで確認する。こういった当たり前の作業を積み重ねていける生徒を支えます。
- ②難しいことを、単純なかたちに加工してしまわず、難しいこととして興味を持ってもらえるような授業を目指します。
- ③学ぶことは限られていますが、少なくはありません。焦る必要はありませんが、のんびりしている時間ありません。一回一回の授業を大切にしてください。

中村 雅俊

(担当:英語)

理解することによって使える知識に



- ①英語の知識は暗記するだけでは上手に使いません。根本から理解することによって使える知識を、そして日本語とは異なる英語という言語の感覚を身に付けよう。
- ②生徒の理解を最優先に授業を進めます。理解度の確認と、自分で考える力を身に付けてもらうためにたくさん質問します。授業中はfullで頭を使ってください。
- ③赤ペン・青ペン必須。予習時には知らない単語・熟語は調べてください。授業には、英語が出来るようになりたいという気持ちと考える姿勢を持って来ててください。

嘉藤 優太

(担当:英語)

英語の楽しさを感じられることを目指して



- ①英語は言うまでもなく言語の1つ。日本語と語彙や文法は異なっても通っている論理は同じ。英語の勉強を通じて、全教科に通用する論理力をも習得しましょう。
- ②なにより、英文法を学ぶ楽しさを伝えることを念頭に置いています。論理的な英文法の説明は、皆さんの思考力を育みます。
- ③必要なのは、学ぶ意欲だけ。意欲的に学び、英語の面白さ、そして奥深さを感じてください。

仲村 昌幸

(担当:英語)

〇〇はそえるだけ



- ①言語に重要なのは「センス(sense)」だ、そのセンスは日々の努力によって作られるものです。そのために日頃から自分の頭・口・耳・目・手をフル稼働させましょう。
- ②受験生に大切なことは「一度やったことを自分で再現できる」ことです。そのために授業内外で頭・口・耳・目・手をフル稼働してもらいます。
- ③【予習】⇒【授業】⇒【復習】のサイクルを質・量ともに確実にこなせること。あとは日々の学習を楽しむ姿勢・余裕があればなおよろしいと思います。

加藤 遼

(担当:英語)

「なるほど」の数、「得意」へのステップ



- ①受験レベルの英語力を鍛えるには、英語という言葉の特徴を客観的に理解することが第一。基本的なことも何度も確認し、ぶれない英語のスキルを身につけましょう。
- ②入試の英語に対処できるように必要となる膨大な知識を、「なぜそうなるか」を解説し、ひとつひとつ納得しながら知識を吸収していただきます。
- ③解答の際に「カン」だけに頼るのはNG。「人に説明できるレベルの知識」を目標とし、自分の言葉で理解・説明する経験を繰り返していきましょう。

西 真理子

(担当:英語)

ヤル気と強い自己抑制のできる人を希望します



- ①あなた自身の今の状態に満足していますか？それが本当にあなたが求めている姿なのでしょうか？想像力が今求められています。
- ②速さ、量、問題を解法する技術とともに、様々な問題に対する強い好奇心を与えます。しっかりと練習に、勝ち気についてきて下さい。
- ③質疑応答、音読、板書など積極的に動いてもらいます。3色マーカーと辞書、向上心をもって授業を受けに来てください。

清水 知華子

(担当:英語)

There is no royal road to learning.

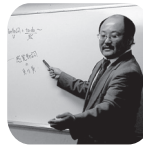


- ①あきらめたらそこで終わる。つらくなることもあると思うけど、そこであきらめないこと。そのがんばりは今後の人生にもきっと影響する。
- ②予習前提です。してきたものとして授業をすすめていきますのでよろしく。
- ③長文の授業などは集中力が途切れがちですが、どうか踏ん張ってください。終わったあと、がんばってよかったと必ず思えます。

福家 唯

(担当:英語)

正々堂々たる「点取り屋」になろう!



- ①スポーツ選手が1点でも上積みするために血の滲む努力をし、それが讃えられる。受験だってそうであるはず。正々堂々の点取り屋を胸を張って目指してください。
- ②指名はしまります。一方通行ではなく、参加型のインタラクティブ授業、セミナー形式です。どんどん間違っ、恥をかいて、強くなろう!
- ③予復習をちゃんとする。授業中は周りに迷惑をかけない。これさえ守れば、後はフリーダムです。みなさん自身のスタイルも大事にしてください。

武知 千津子

(担当:英語)

鬼に金棒の英語力を!



- ①語彙が充実すれば、かなり強い「鬼」になります。着実に増やす努力を。同時に、英文を支えるルールである文法の知識は「金棒」です。自然に使えるまで消化を!
- ②読解は、英語力だけでなく、いわゆる教養力が必要です。英文の精密な分析とともに、文章の内容に関連する背景などもたっぷりお伝えします。
- ③読書を上手に活用して、自力でやれることの幅を広げましょう。それでもわからないところを授業で解決するという姿勢で臨んでください。

山崎 晋平

(担当:英語)

言語の美しさに、その一言一句に打ち震えよかし!



- ①言語や学問は人が手にしたもったも愉快なおもちゃだと、そう確信する人たちが難関大の問題を作っています。彼らが問題に隠した魅力を一気に紐解いてみましょう。
- ②各文が文章全体に果たす役割を語句単位から捉えていきます。まれに、ごくまれに、脱線して語源、言語史、ドイツ語、古典語、哲学、サブカル方面に迷い込みます。
- ③授業の濃度を高めるために文法知識・語彙の道具立てはなるべく早く揃えましょう。深く広い好奇心を携え、常に講師をも疑問にしながら質問を投げかけてください。

竹村 かよ子

(担当:英語)

できる社会人、できる国際人への第一歩です!



- ①「楽しくなければ、授業じゃない。」がモットーです。明るく、分かりやすく説明します。指名はよくします。生徒参加型の授業で頑張りましょう。
- ②新出の文法項目を含む例文の暗唱を毎週の課題とし、300程度の長文で、覚えたパターンを正しく読み取れるかの訓練をします。だんだん楽しくなっていますよ。
- ③英語が「好き」「嫌い」「得意」「苦手」「むずかしい」そんな先入観は捨てて、まずは「先生の話を聴いてみよう」という素直な気持ちで授業に臨んでください。

渡壁 晃士

(担当:英語)

授業の主役はみなさんです!



- ①英語の勉強、特に受験勉強は辛いことが多いですが、時に厳しく、時にふざけながら共に困難を乗り越えていきましょう。
- ②授業の主役はみなさんです。できる限りみなさんに発言してもらおうと思います。一方的に話を聞かされたりも自分が発言する方が記憶にも残りやすい上に、他人の発言を聞くことによる勉強になることも多いんですよ。
- ③僕は毎回100%の気持ちで授業に臨みます。みなさんも同じような気持ちで授業に臨んでくれることを期待しています。

岩井 清

(担当:数学)

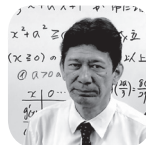


手を動かしましょう!!(とにかく何でも書いてみよう)

- ①基礎基本を大切に!!中途半端な理解や知識は役に立ちません。時間がかかっても、ひとつひとつ理解を確認する。「一歩ずつ着実に」それが最終的には近道です。
- ②『わかる』から『できる』に成長しましょう。『わかる』では不十分です。繰り返し問題を解いてみることで、問題演習を重ねて『できる』を目指しましょう。
- ③ノートを見て『復習した』、解答例を見て『勉強した』は、勉強した気になっているだけで時間の無駄です。自分で手を動かして、白紙の紙に解答を作成しましょう。

新矢 浩司

(担当:数学)



本質を見抜き、「わかる」から「解ける」へ

- ①入試問題は複数の単元が融合されています。各単元の公式、定理をどういう局面で使うのか?どういう時に使ってはいけないのか?それらの本質理解が大切です。
- ②「まずどうする?」「次にどうする?」と質疑応答しながら、皆さんと一緒に問題を解いていきます。大いに間違ってください。それぞれが本質なのですから。
- ③予習は出来るところまで構いません。予習よりも、例えば、3日後、6週間後、9か月後というような、短期・中期・長期の復習を必ず行ってください。

恩田 晶夫

(担当:数学)



表面だけでなく、その根本もおさえよう

- ①解法は知っているけれど、考え方は知らない。それはいずれ解けなくなっていくという含意です。解き方だけでなく、その意味をしっかりと捉えていくことが重要です。
- ②解法だけでなく、考え方についても聞いていき、関連内容についてもあわせて解説していきます。
- ③授業で扱う内容だけでなく、どこまで理解できていて、どこから理解できていないのか、自分自身のことを知ることにも努めていきましょう。

多賀 みのり

(担当:数学)



自分に厳しく、目標に向かってがんばりましょう

- ①大学受験はそれ程甘くないです。やるべきことを把握し、後回しにせず学習するのモットーの1つです。そんな頑張りが楽しいと思える時間をともに過ごしましょう。
- ②問題を解くときには、なぜこのように考えるのかを理解したうえで解法を組み立てていくようにします。考えを伝える答案を作成する力をつけていきます。
- ③「わかった」「わからない」をしっかりと表現しながら受講してください。その週の間に復習して、身につけていくことをコツコツと繰り返すことが大切です。

梶屋 三郎

(担当:数学)



共テも2次も戦える数学力を選び抜かれた良問で!

- ①あつという間に2時間が過ぎる、数学がおもしろくなる、元気になるその秘密は何?シンプルで簡単かつ鮮やかに解ける36マジックでA.R.E.を目指しましょう!
- ②対面スタイルの授業は声に気持ちと想いが言葉に乗るライブ感覚と同じ。復習を習慣にして、問題をキミの手で解けば間違いなく数学力が養われます。
- ③ただ解答を写さずに問題を解こう!自分の頭で考えよう!反応しよう!ボケには突っ込みよう!笑おう!楽しもう!そして人生の金メダル奪取を目標に共に挑もう!!

平川 修三

(担当:数学)



その人にふさわしき贈り物を

- ①獲物を発見したのにそこで引き返す人たちがいます。考え方を理解して満足する人です。受験生はそこで撃たねばなりません。受験は「解ける者」だけが勝利します。
- ②数学は「解き方」を聞けば「なるほど」となることが多いです。数学は論理だからです。しかし大事なものはそこから。「解き方の思いつき方」を伝えたいと思います。
- ③夜道に街灯の下で探し物をする人がいた。「ここで落としたの?」と尋ねるところ答えた。「あつちだけど暗いからここを探しているんだ」…あるはずの所を探しましょう。

加藤 貴之

(担当:数学)



「なぜ?」の問いを日常的に!

- ①何気なく使っている公式や解法、その仕組みを正しく説明できますか?「なぜこう考えるのか?」の問いを繰り返して、数学的な思考を鍛えましょう!
- ②定義・解法それ自体より、そのように考える理由や仕組みについて細かく説明するので、解答の細部は必ず復習での補充が必要です。また、授業内の問いかけも多めです。
- ③1つは、間違っていることを恐れない!他者の間違いを笑わない!(試行錯誤こそ数学です)もう1つは、課題で復習を忘れない!反復は定着の基礎!

藤井 すぐる

(担当:数学)



なんでもやれ。全部やれ。能書きはその後だ。

- ①天才は努力する者に勝てず、努力する者は楽しむ者に勝てない(孔子)
- ②すごくはやくて、すごくたくさんしゃべって、すごくたくさんかきます。たのしい!
- ③予習は必要ありません。その時間があるなら復習に費やしてください。大事なものは、何かをすること、手を動かすことです。大丈夫。全部うまくいく。

河村 央也

(担当:数学)



わかれば嬉しい。考えるのは楽しい。それで合格!

- ①目の前に二つの道がありいずれに進むか迷ったら、困難に見える道を選ぶ。実はそれがいちばん確かな目的地に続く道なのだ。苦しくても頂上に至る道歩もう。
- ②黒板を写すな、ノートをとれ。乗る練習なしに、自転車に乗れることはない。数学も同じだ。「分からない」からもうあと5分、考えよう。授業の中で数学をやろう。
- ③まず自分で解く。できなくてもその過程に学べ。複雑すぎる方法のため止まったのか、この方法では解けないのか、はつきりさせる。模範解答を見てもらえばつかない。

藤原 宏司

(担当:数学)



「考える力」を身につけよう

- ①高校の数学は、中学の数学に比べると格段に難しくなります。しかし、考え方のコツさえつかめれば怖くない。考え方のコツを伝授します。
- ②私の授業は、解き方だけを教えるのではなく、なぜその解き方をするのか、を教えます。そして、途中式や説明の書き方も徹底して指導します。
- ③まず、ノートに途中式、説明を書きましょう。そして、自分で考えることを意識して授業に参加してください。分からないところは、しっかり教えます。

藏 貫大

(担当:数学)



正しい方向に適切になされた努力は必ず報われる

- ①高校3年間は今後の人生を大きく左右する大切な時期です。十分な努力を経て担担だ学歴は人生の大きな屋台骨となります。後悔せぬよう全力で駆け抜けましょう。
- ②数学で大切なのは、問題の「解き方」よりも「考え方」です。自分の頭の使い方を皆さんに伝えることを授業では心がけています。
- ③授業中も受身にならず常に頭を使ってください。まずは自ら「試行」し、そこで得た情報をもとに「思考」を積み重ねてください。それが「至高」への唯一の道です。

古田 大輔

(担当:数学・物理)



面白き事なき世を面白く

- ①上のメッセージは心の持ち方ではなく、心で世界を捉えられるという意味です。心の持ち方1つで数学は深く素晴らしい世界に変わります。
- ②ただ単に問題を解いていくのではなく「なぜ問題が解けるのか?」「問題文を見て何を思うのか?」などの思想の部分に大切に授業を展開していきます。
- ③まずは受け入れること。そして「昨日までできなかったことをできるようにする」ということを日々意識すること。

上月 章浩

(担当:数学)



使わない知識は雑学、使えて伝えられてこそ勉強!

- ①「わかっているのに解けない...」は実は何も分かっていないことと気づくべし。知っているから使えるへ、使えるから(答案として採点官に)伝えるへ。
- ②目の前にある問題だけ解いて満足するのではなく、この問題で「受験生の何をしたいのか?」「計りたいのか?」を考察していく。
- ③模範解答が毎授業の度に配布されるが、これをもって満足している人は要りません。問題にある背景、作問の方法などにも興味を持って聞いてください。

松尾 吉輝

(担当:数学)



理解を深めて再現性を高めよう

- ①高校数学は丁寧に学べば必ずできるようになります。見方、考え方を身につけて数学を楽しみましょう。
- ②基本知識の確認、理解を通して解法の発想を学んでいきます。着眼点の見つけ方や方針の立て方などの確認をし、初見の問題も解けるようになることを目指します。
- ③問題が解ける解けないということではなく、なぜ解けないのか、なぜこの解法なのかをよく考えるようにして下さい。一題からできるだけでなく多くのことを学びましょう。

近藤 和明

(担当:数学)



みなさんの数学力の向上を全力で応援します

- ①まずは基礎的な考え方の定着を。その上で一つではない様々な解法へのアプローチを共に考えていきましょう。数学のことでも数学以外のこともいろいろ質問してください。
- ②「黒板に書いてあるから」「解説がそういう流れだから」ではなく、数学を解く上で使う公式や変形には「必要性」があります。その「必要性」を感じられるようにいたします。
- ③反復なして学力の向上はなかなか難しいです。授業から次の授業までの復習をきちんと行い、単元の定着や新たな疑問とその解決を繰り返しましょう。

宮本 紘助

(担当:数学)



先人・天才らが創ってきたアイデアを楽しく学ぼう

- ①高校の3年間は短い。志望校合格、合格をものにする最短ルートと一緒に勉強していこう。最短ルートとは「わかる」を積み重ねていくことです。
- ②「わかる」のために①基本事項の解説、確認を徹底します②考える時間を取ります③問題を解くときにどこに着眼すればよいのかを中心に解説します。
- ③まず、自分の考えたことを、たとえ途中であっても書いてみるようにしてください。そして、わからなければ、どんなことでも質問する勇気を持ってください。

山野 延州

(担当:数学)



とにかく、やるしかないよね

- ① 数学の答案が書けるようになるコツは、いきなり最後の答えにたどり着こうとはしないで、今ある情報の中で出来る目の前のことを一つ一つ処理することで。
- ② 解法の突破口の発見に重点を置いた授業です。問題を目の前にしたとき、大切なのは「公式」ではなく、「常識」です。自分の頭でまず考える。これに尽きます。
- ③ 受身ではなく能動的に「自分ならこう解きたい」という批判する目を持って下さい。「目的意識」を常に持てば自然と自分の力で考えられるようになります。

中村 飛鳥

(担当:物理)



それでも地球は回っている

- ① 理科が嫌い、物理が分からない、その気持ちものすごく分かります!だからこそ、ハマると最高に面白い教科です。面白くなるように全力でサポートします。
- ② 「どうしてそうなるのか?」をとことん追求します。何となく理解したつもりにはさせません。一緒に楽しい時間を過ごしましょう。
- ③ 十分に休息をとって頭をフル回転する準備をしてきて下さい。問題や解答への文句は大歓迎です。新しい解き方を見つけていきましょう。

石川 隆三

(担当:国語)



高3で国語に時間を割かせないこと!それが使命です

- ① 高1、高2で受験に耐える底力を築きましょう。特に古典文法や漢文の反復・定着を意図と命取りです。早め早めの国語力のアップをしっかりとフォローします。
- ② テストと課題の繰り返し、そして一人一人を指名しての口語訳を通して実力をつけます。受講生みんなと双方向に議論を尽くし、納得できる答案作りの道を示します。
- ③ ただやみくもに暗記してもすぐに限界が来ます。合理的な知識の整理、そして根拠に基づいた解答を導く思考回路を養いたい生徒のやる気は、とことん付き合います。

兵谷 友聖

(担当:物理)



目標はシンプル。物理法則を言葉で理解すること。

- ① 物理という科目は、他教科に比べ得意不得意が大きく分かれる科目です。「なんとなく分かる」に気を付けて、楽しみながら本質を掴むことを忘れないように!
- ② 原理・法則を言葉で理解し、現象・数式・グラフの3本柱で物理を学んでいきます。その上で役に立つ「微分・積分」も所々使いながら、基本を理解していきます。
- ③ 「問題が解けるかどうか」ではなく、「問題を理解しているかどうか」という視点で、復習は念入りに行ってください。友達に説明できるようにするくらいに。

桑野 恵美子

(担当:国語)



磨け疾風怒濤のつっこみ力!

- ① 何だかなあと思ったそのときに、何か意味分かんし上から目線だしムカつくうと言っているもアレなんで、受験国語を自分で正しく読み鋭くつっこみ力を育まわ!
- ② 問題文から読み取れる情報や論理関係のみならず、背景知識についても言及し、実生活や他教科での学びとのつながりを感じ、理解が深まるよう心掛けていきます。
- ③ 眠くならぬよう努める所存ですが、みなさんも眠らないよう気合を入れてください。眠気防止に当てていきますが、授業中に間違っなのはおいしいと心得ましょう。

福地 悠

(担当:物理)



物理はイメージと式のバランス

- ① 物理は、現象を正しくイメージすること、式を正しく立て計算することが必要です。この2つをバランスよくできれば、どんな問題でも対処できるようになります。
- ② 格好いい解法、無駄に難しい問題ができる必要はありません。基礎事項を正しく理解し、ふつうのことをふつうにできることで、最難関の問題でも解けるようになります。
- ③ 考えたこと、疑問に思ったこと等、遠慮なくどどんぶつげに来てください。一緒に考え、一緒に成長し、一緒に目標達成へ向かっていきましょう。

桑野 稔浩

(担当:国語)



言葉に誠意を。解答に誠意を。

- ① 国語で問われているのはコミュニケーション能力。問われたことに、当たり前のことを答える。身構えず、実直にやっていきましょう。
- ② 古文の知識事項は徹底的に反復します。現代文はひたすら理詰めします。国語を安定的な得点源とするための方法論の構築を目指します。
- ③ 「何となく」や「雰囲気」は禁句。予習はいいから復習を。一回読んで納得できるほど甘い世界ではありません。

井川 一郎

(担当:化学)



基礎・基本を大切に!

- ① 基礎・基本とは簡単(平易)な内容ではありません。みなさんが受験する志望校における学習内容です。授業ではそのことを明確にしていきたいと思います。
- ② 授業の前半は基本事項の確認・定着を行います。授業の後半で演習問題を通して、定着した学習内容を再確認して、発展させていきます。
- ③ 授業後の復習は必ず行ってください。演習問題の復習を通して、学習内容の理解がさらに深まります。

彌榮 浩樹

(担当:国語)



入試国語は「実技」科目です!

- ① 入試国語(現代文・古文・漢文)の本質・構造を理解し、正しい方法にしたがって、読む・解く訓練を重ねる。国語の点数アップにはそんな継続的な努力が必要です。
- ② 毎回、入試レベルの問題に挑戦します。うまく読解できなくても、大丈夫、自分の弱点(読み方・解き方・知識)や身につけるべき課題が明確になればよいのです。
- ③ 復習を大切に! 授業中の疑問への挑戦を通じて、自分の弱点を明確にし、復習で正しい方法を定着させる。「授業+復習」で一回分の受講だ、と考えてください。

江口 淳一

(担当:化学)



知識と理解と思考による化学反応を授業を通じて

- ① 講義を通じて、よりよく「理解」する、さらには、より「考える」ことで、皆さんの中で、少しばかりの化学変化が起こることを期待します。
- ② 「知る」ことは、「理解」することへの、「理解」は、「考える」ことへの助けとなります。知識と理解、思考のバランスのよい授業を目指します。
- ③ 授業内で必ず一回は、笑ってください。授業を楽しんでください。知ること、理解すること、考えること、化学の全てを楽しんでください。

宮城 裕次

(担当:国語)



国語は論理と教養の科目であると理解しましょう

- ① 現代文・古典ともに、読めない原因は最終的に「教養不足」であることが多いです。受験勉強は大学生に求められる教養を身につける場でもあると考えましょう。
- ② 高校生にも真似できる一貫した論理的解法を軸に、もう一步深く読み込むための教養的内容も多く解説します。きっと、国語という科目の面白さに気づけるはずです。
- ③ 国語は必ず手を動かして解きます。線の引き方など、とりえず言われた通りにやってみる、という姿勢を持ってください。自分なりにやってみるのはそのあとです。

久保 博路

(担当:化学)



最後まであきらめない!

- ① 学習に王道なし。「合格」という千里の道のりも目の前の一歩から。少しずつ積み重ねていきましょう。
- ② 授業時間内で演習していきます。緊張した短時間内に考えることで、問題処理能力を試します。解けないところは解説で補填していきます。
- ③ 板書は、プリントにチェック&追加で進めます。知識を整理したら、復習プリントでさらに演習し、定着をはかりましょう。

山崎 剛志

(担当:国語)



手を抜かない! カッコつけない! あきらめない!

- ① 勉強はしんどいときもあるかもしれない。でも、そんなとき、カッコつけず、手を抜かず、あきらめず努力していたら、君は一つ上のステージに上られるはず!
- ② 現代文は考えることと書くことに重点を置き、古文・漢文は重要事項の定着を図ります。高1・2生から国語を受講して良かったと思ってもらえる授業を展開します。
- ③ 古典文法や漢文の基本的な句形の定着をメインテーマとし、重要ポイントを体系的に説明します。授業ノートを君だけのオリジナルの参考書に!!

松本 省三

(担当:化学)



発想法・思考法・テクニックを効率よく定着

- ① 必要量の学習を正しい手順で積みれば、得点力が向上しないはずがありません。成果をその都度測定し、学習法に微調整を加えず受験まで走り抜けましょう。
- ② 現象を正確に把握し、一般性・法則性を見出し、未知の事象を予想する洞察力・思考力を培うことを主眼に、得点に必要なテクニックを織り交ぜ解説していきます。
- ③ 授業内で理解できないことは徹底的に質問すること。そして理解できた内容は徹底的に復習して、次回授業までに概念も技能も確実に定着させること。

古林 泰昌

(担当:数学・物理)



深い理解を目指します!

- ① 自分の頭で考える習慣を身に付けることが、大学で勉強するための必要条件です。普段から客観的・論理的に考える習慣が学力の基礎となります。
- ② 理解すべきことの到達点を明確に設定します。また、復習にもつながるように、各単元の全体像を明確にします。
- ③ 授業や演習は自分の理解を助ける大切な道具ですから、最大限に利用してやるという気持ちを歓迎します。そんな皆さんに応えられるよう準備しています。